年 主 題 「自分」をもつ

年主聖句　神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それはきわめて良かった。（創世記１章３１節）

（公定訳　新共同訳聖書の引用）

Exercises Observations of The Genesis Bible Translation　(1987-1989)

（文語訳　日本聖書協会　Japan Bible Society　1888）

5月の聖句

「求めなさい、そうすれば与えられる。」（新約　マタイによる福音書　７章７節）

多くの神学者は、生まれたばかりの赤ん坊のように、全ての人は、人間としての、自分で歩き始めるまでに一年かかるのです。それだけの期間かかられて、愛情を注がれて、保護の一年を過ごすことになるのです。それなりに成長の一つはあくまで学習なと、愛情が伝授されることなのです。この愛情によって、人は成長してゆきます。そして、この成長が既なる存在を目ざ起こすことになるのです。神は次のような様を、神たちとしてくださいます。そこで、ライムは、「求めなさい、そうすれば、与えられる。」と語りかけて下さっているのです。ただし、盲目的な盲信をしてもいいよと言っているのではありません。それ以上にすることがあるのです。強い内容です。強い言葉は人生の方向転換をするよう言うことです。自分からの方向へ人生の向きを転換するのです。だから、そこに絶対的な人生ではなく、ライムスを通して開かれた神の愛に満ちた人生が開かれることになるのです。だから、求めなければならないのです。「愛に満ちた生活を送ってください。」と。

5月の月年聖　「みつかる」（公講会）　「みつける」（日・4・5週間）

人には多くの出会いがあります。出会いとは、自分が「みつける」ことであり、神様が「見つける」ことであるでしょう。出会いと言いましても、人との出会いもあれば、ものとの出会いもあります。あるいは自然との出会いもあるでしょう。私たちは、この出会いを経験と呼ぶのです。経験を通して、神様の思いを知ることになります。喜び、悲しみ、楽しい、苦、辛い、その出会いが、私たちの心の中を豊かにさせたり、広ったりしたりするのです。気遣います、その体験に気付きます、気付きます、時に学びて楽しんだりしたりもします。だから、時には試みたりもします。挑戦的に闘ったりもするのです。本当は自然の恵みも経験です。時には、ヨハネの祝ったり、チューリップもハイビスカスも桜もランの花も咲きました。オクラもの花も海の花も生命を誕生しました。実ったりました。開花にのぼったも見つけられました。自然者の皆さんも見つけて下さい。そして、ぜひに思い出作ってください。そして、この経験を通じて、ものの広き自分を見つけたい思われるものです。